

神と善悪



東郷 潤

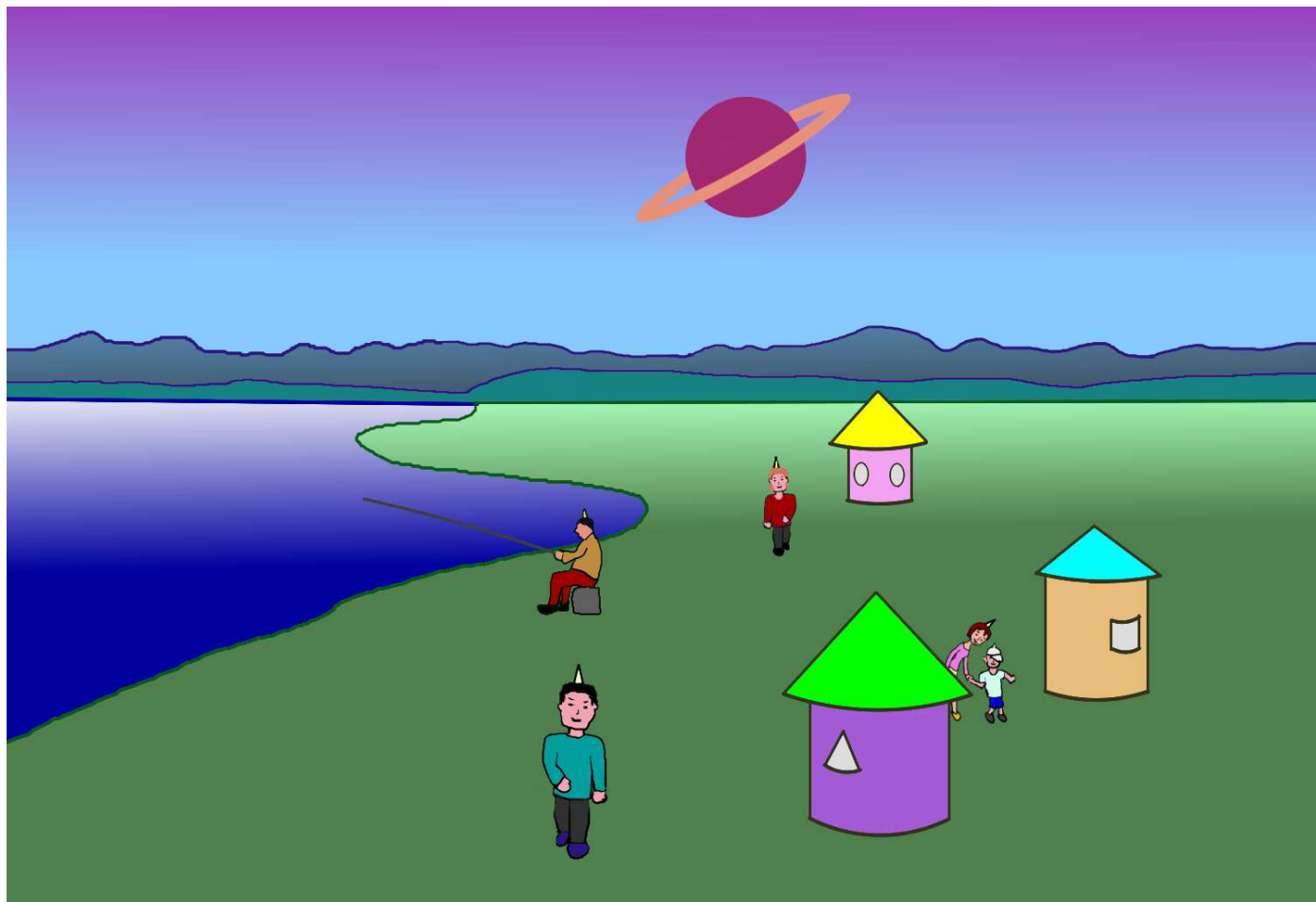
〔注〕

この絵本は異星を舞台としたサイエンスフィクションであり、神についてなんらかの主張（神とはこういうものだ、神はいる／いない等）をする意図は有りません。

むろんいかなる神への冒瀆を意図したものでありません。

また食のタブーを巡ってストーリーが展開しますが、地球上の特定の文化・宗教の食のタブーについて描くものでありません。

遠い宇宙のある星に、善悪を何よりも大切にしている人々が住んでいます。



彼らにとって、善悪は神様からの命令です。善は「しろ」、悪は「するな」ということです。神様は絶対なので、善悪には絶対に従わなければいけないと彼らは固く信じています。

ある年のことです。湖の魚に病原菌が増えて、魚を食べた大勢の人が病気になりました。神様は人々のことを心配し、預言者に言いました。預言者というのは、神様の言葉を伝える人のことです。

人々に伝えて欲しい。
病気の原因は湖の魚なんだ。
病原菌がいる魚を
食べちゃいけないよ



預言者は人々に神様のお告げを伝えました。



預言者に言われて、人々は魚を食べなくなりました。人々はとても敬虔で信心深く、悪いことをするような人は、ただの一人もいなかったのです。おかげで病気の広がりはい止められました。みんな大喜びです。

・・・それから、数百年という年月が流れました。今では病原菌もいなくなり、湖の魚を食べても安全です。ある年、天候不順で、ひどい飢饉になりました。でも、人々はずっと「魚を食べることは悪いこと」と信じているので、誰一人、魚を口にすることはありません。



その結果、大勢の人が飢え死にしていきました。

それを見た神様は悲しくなりました。
人々を愛していたからです。神様は、ふ
たたび預言者へ話すことに決めました。
最初の預言者はもう亡くなっていたの
で、今度の預言者は別の人です。彼も神
様の言葉を聞くことが出来ました。

人々に伝えて欲しい。
もう病原菌はいなくなった
から、魚を食べなさい。
そうすると餓えずに
すむから



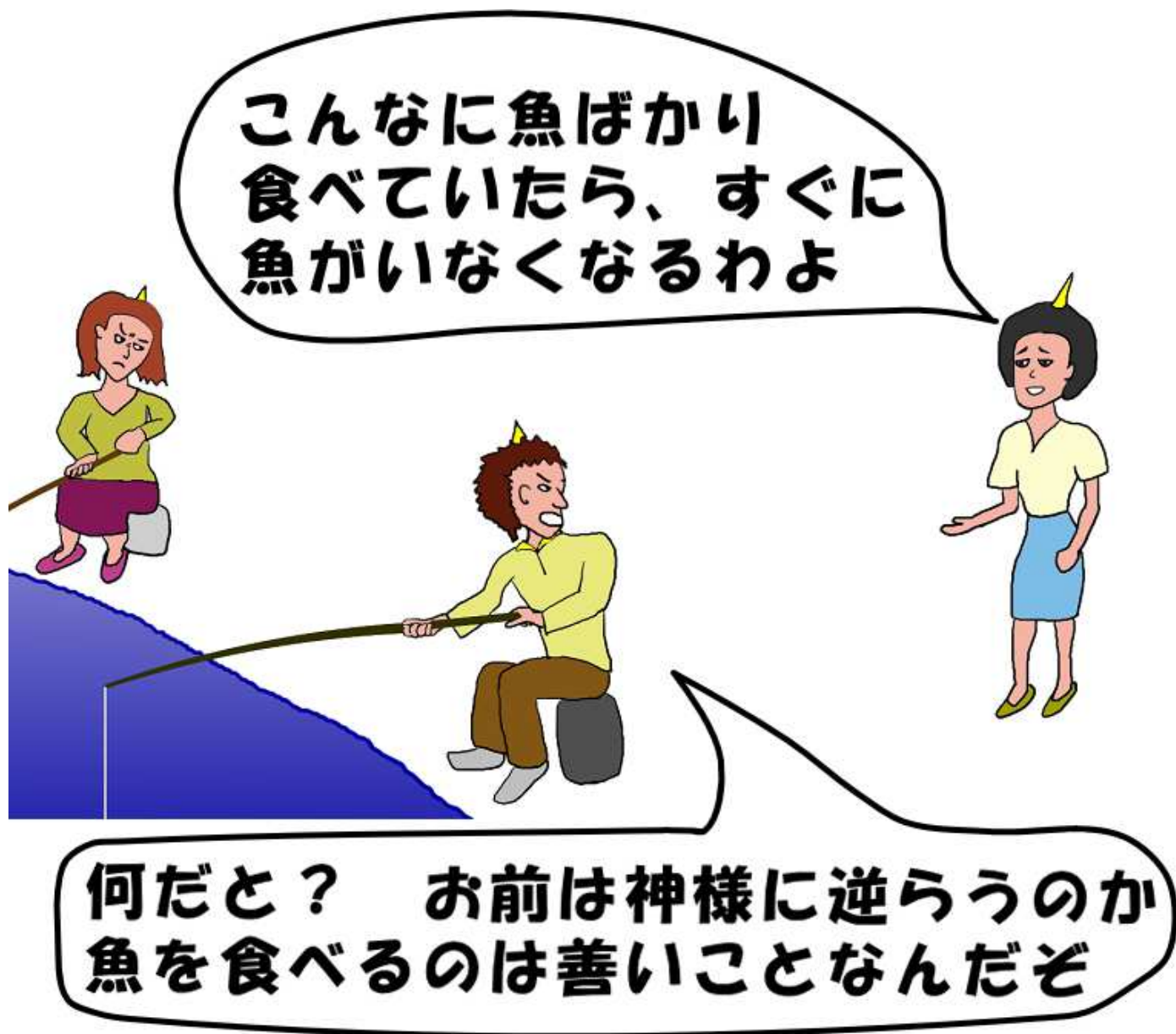
新しい預言者は人々に伝えました。

魚を食べるのは善いことです
これは神様のお告げです



そこで人々は、魚をどんどんと食べる
ようになりました。

中には、魚の獲りすぎを心配する人もいます。



魚の獲りすぎを心配する人は、叱られて口を閉ざしました。

すぐに湖の魚は食べつくされ、ほとんどいなくなっていました。少しずつ計画的に食べていけば、ずうっと食べ続けることが出来たのですが・・・

魚が釣れない。
お腹がすいたよお



結局、大勢の人が餓死することとなりました。

神様はとても悲しみました。人々を深く愛していたからです。



人々はせっかくの神様の愛を、善悪の錯覚で受け取ることが出来ず、闇の中でもがき苦しんでいるのです。

あれ、どうしたんでしょう？ 人々が争っています。

魚を食べるな！
神様に逆らう悪人め！

魚を食べろ！
神様に逆らう悪人め！



それぞれ新旧の預言者を信じる人々です。



神様が泣いています¹。

¹ 雨を神様の涙と見立てた比喩表現です。神様を冒瀆する意図は一切ありません。

あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2012